

災害に向かい合うために

～片田教授のメッセージ～

昨年11月19日、田辺市で震度4を観測した地震がありました。いよいよその時が来たと思った方もおられると思います。昨年4月の熊本地震や10月の鳥取県中部地震、そして津波警報が発せられた11月の福島県沖地震など、ここ最近全国各地で地震が発生しています。また、豪雨災害についても田辺市を含む全国各地で多発しており、東日本大震災以降、地震は多発期に入ったと言われ、気象災害も温暖化の影響で激甚化していると言われています。

このような状況の中、今、私たちはどのような意識を持って災害に向かい合えばよいのでしょうか。不安を感じているだけでは、何も状況は改善されません。また、学校教育の現場では、熱心な防災教育が展開され、田辺の子供たちは自分の命を守ることを一生懸命に学んでいます。子供たちも災害には不安を感じているはずですが、そんな田辺の子供たちを前に、大人たちはどのように災害に向かい合い、振る舞うべきなのでしょう。田辺市に関わりを持つ防災の専門家として私の思いをお伝えしたいと思います。

いつか来る『その時』のために、具体的な行動に移す

災害に対する漠然とした不安を感じながら、災害が多発している事実を改めて認識すると、私たちの不安はさらに高まるものです。このような状況になると、私たちは災害対応の一層の充実を行政に期待したくなるものです。もちろん災害が厳しくなる昨今の状況を踏まえるならば、防災の充実を図ることは、行政の重要課題であるはずですが、行政がどれだけ対応を重ねても、相手は自然ですから、不安を完全に解消するだけの抜本的な対応策はないことも、また事実として受け止めなければなりません。

このような不安な気持ちの中で、私たちは非常食や水の備蓄などの簡単な対応は行ったとしても、不安を解消するには至らず、ざりとて抜本的な対応策も見付からないため、それ以上積極的な対応をせずに日々を送ってしまいがちです。こうして時間だけが経過してしまいう先には、必ず『その時』が待ち受けています。

私が田辺市民の皆さんにお願いしたいことは、災害は確実に厳しさを増しており、『その時』は歴

みんなの精一杯の努力がまちをつくり、子供たちを育む

もちろん相手は自然ですから、いつ起こるか分からないとはいえ、あの東日本大震災のような想像を絶する災害が起こることもあります。『その時』が来たら、犠牲者ゼロを達成することはできないかもしれませんが、そうであつたとしても、右往左往せずに、犠牲者ゼロを目指して肅々と官民挙げて努力を重ねること。それのみが今できること、やるべきことであり、この田辺の地にりと生きるといふことだと思います。そんな姿勢で災害に向かい合う大人たちの姿こそが、子供たちに見せる姿勢だと私は考えます。右往左往することでは不安は解消しません。それどころか一層の不安をつくり上げ、その大人たちの姿に子供たちの不安まで高まります。一方、できることをみんなで精一杯重ねたとき、一人ひとりの不安は完全には解消せずとも、みんなで精一杯やったことへの納得が不安を和らげ、何よりも防災としての効果を最大にします。また、田辺市民の皆さんが災害犠牲者ゼロを目指して一丸となることは、思いやりの温かさで前向きな思いにあふれ

史が証明するとおり、「確実に近づいている」という現実にしつかりと向かい合っていたくことです。この時、十分な対応をしていなければ、それに応じた被害が生じ、後悔を伴う結果となってしまう。私はそんな現場を数々見てきました。ただ不安がついていても何も改善されません。皆さんの感じておられる不安を単なる不安にとどめずに、具体的な行動に移すことが今こそ必要だと感じています。どれだけ対応を重ねても、不安を完全に解消することにはならないことも事実ですが、一方で、実際に重ねた防災対応は、重ねただけ確実に効果につながることもまた事実なのです。

市民一丸となって、災害犠牲者ゼロを目指す

災害なんかに我が家は負けない、この地域からは絶対に犠牲者を出さない。そうした災害犠牲者ゼロを共通の目標として家族・地域・学校で共有し、田辺市民が一丸となって災害対応力の弱いお年寄りや障害のある方、小さな子供たちのことを思いやり、今できることに肅々と取り組んでいただく。そして、やるだけのことはやっ

た明るいまちをつくり出します。そんな環境の中で田辺の子供たちを育むことこそが、今の田辺に最も大切なことだと思うのです。

こんなときだからこそ、改めて防災のあるべき姿、そして、自分はどうのように災害に向かい合うべきなのかを考えていただければと思います。



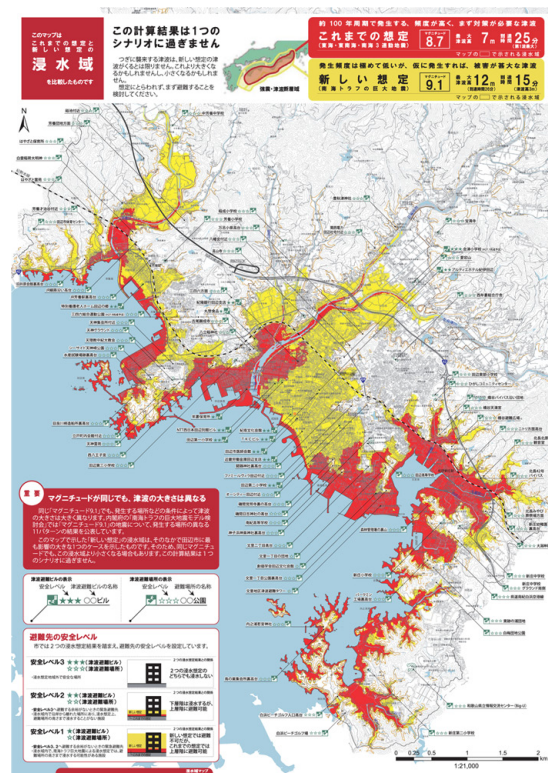
かた田 敏孝
片田 敏孝

昭和35年岐阜県生まれ。群馬大学広域首都圏防災研究センター長、群馬大学大学院理工学府教授。災害社会学を専門とし、災害時の情報伝達や危機管理について研究している。防災教育にも取り組んでおり、東日本大震災で、市内の小中学生の生存率が99.8%だった「釜石の奇跡」に大きく貢献。平成25年度からは田辺市の防災教育に携わる。

自然に向き合い、命を大切に する防災教育

田辺市の学校では、子供たちがそんな思いで防災に取り組み、避難訓練を重ねています。これからも継続的な取組は必要ではありますが、これまでの防災教育を通じて、田辺の子供たちは地震が来たら身を守り、津波に備えてできる限りの避難をする子供たちになってくれました。そして、「災害から命を守る」ことの意味を学び、

たというある種の納得を得ること、それが今の田辺市において求められる防災の姿だと思います。



▲片田教授監修の下、田辺市が作成した津波ハザードマップ。予想される浸水の程度や避難情報等の各種情報が分かりやすく表示されています。